



全国EMの日一斉投入を盛り上げよう！

U-ネット宮城県世話人の平野勝洋氏ら仙台市荒浜地区復興を支援

仙台市若林区の荒浜地区に流れる貞山堀及び周辺も津波に襲われ、3年以上経過した現在、ガレキこそ片づけられているものの、家がほとんどない荒れ野原だ。荒浜の深沼海岸に立つ観音像の慰霊碑が被災地を訪れる人たちに鎮魂の情を誘っている。

この荒浜地区の復興に活動するボランティア「荒浜再生を願う会」のメンバーの皆さんは、月に1回、荒浜海岸や貞山堀周辺の清掃活動をしている。この活動メンバーから平野勝洋氏がEMでの環境浄化の相談を受けた。

平野氏は、津波の被害に遭ったままで復興が遅れている荒浜地区を、EMでの環境改善要請を快く受け、月に1回の「荒浜再生を願う会」の活動日に合わせて、5トンのEM活性液を貞山堀に運び、集まったボランティアの皆さんと協働で投入する考えだ。これが定着すれば、未だに津波被災者の仮設住宅から出られない方々にもEM活性液を配り、仮設周辺の環境改善にも貢献したいとの考えを持っている。

伊豆沼の浄化が環境改善や地域振興に波及

平野氏のライフワークは日本最大級の渡り鳥（白鳥等）の越冬地として有名な伊豆沼の浄化で、着々と成果を上げている。その原動力は本人の強い意志と全くの自費で設置したEM活性液の培養工場だ。平野氏は長年にわたり、培養工場で作られた活性液をタンクローリーで伊豆沼に運び投入し、沼の浄化を図っている。成果として、絶滅したとされていた川エビが復活し、沼のヘドロが減り、ハスがだいぶ増えてきている。ハスの咲く時期には観光客で賑わってきた。さらに今年から、きれいな水でないと育たないとされる「ジュンサイ」も見られるようになったという。

この事業は、環境改善のみならず観光や産業がらみの地域振興にも波及する素晴らしい成果が期待されている。



※貞山堀とは、約400年前、伊達正宗が掘削を命じて明治期に完成した運河で、仙台湾に沿う形で阿武隈川河口から北上川河口まで約60kmに及ぶ川の大動脈。

【左写真】

大震災直後、宮城県沿岸地域を環境改善・塩害対策で大活躍したEM活性液5トン入りのタンクローリー。これで伊豆沼等の浄化を進める宮城県世話人の平野勝洋氏（右）と全国EMの日PT担当リーダーの小川敦司氏。

全国EM一斉投入に参加される方は、下記ご記入の上、U-ネット事務局までご返信ください

参加申込書

参加者名	代表者名()
住所	〒 都道府県
電話	
FAX又はEメール	

※実施結果の集計のため、8月以降に事務局(担当:三上)から確認のご連絡をさせていただきます。